

飯塚市オートレース事業の活性化について

平成15年11月5日

飯 塚 市

1. 事業の沿革

昭和25年 9月25日	社団法人福岡県小型自動車競走会設立
昭和32年 2月22日	飯塚オートレース場開設
昭和33年 2月	G 開設1周年記念レース開催
昭和33年 8月	G 第1回ダイヤモンドレース開催
昭和40年 5月25日	SG第1回オールスターAR、飯塚場で開催
昭和42年10月 6日	新オートレース場(現在地)に移転
平成元年12月 1日	G 第1回全国地区対抗戦、飯塚場で開催(現在廃止)
平成 5年10月	電話投票開始
平成10年 4月	8車8枠制を導入
平成10年 7月	コミュニケーション・サテライトシアター設置
平成15年11月 8日	3連単賭式導入、発売開始
平成15年11月15日	CS放送・飯塚専用チャンネル777ch放映開始

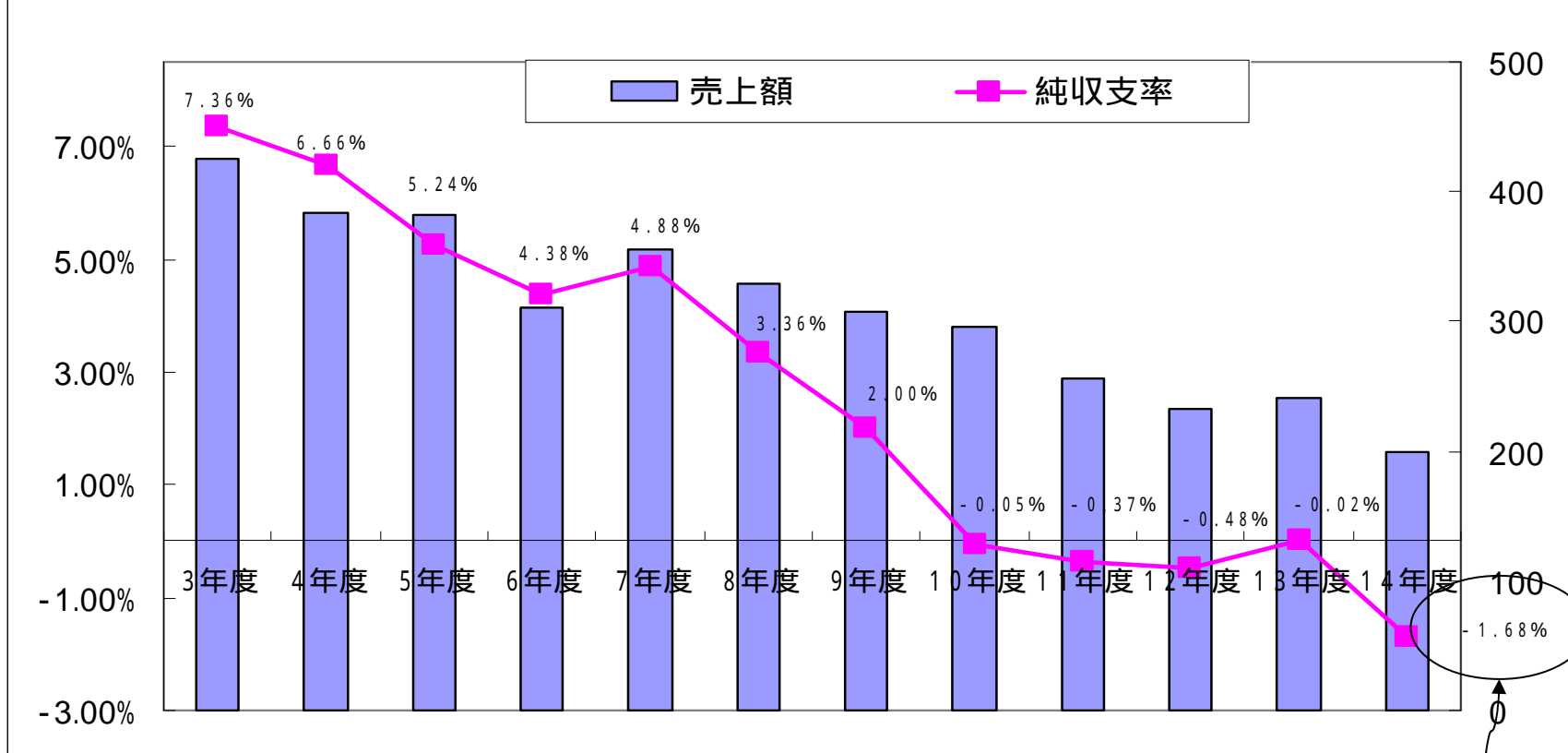
2. 飯塚オートレース事業の収支

(1) オートレース事業を総合的に見ていく

オートレースの年間売上額と施行者経常収支率の推移

【平成14年度純収支率 - 1.68%は速報値に基づく】

億円



速報値

売上	売上額 (百万円)	前年比
3年度	42,485	-
4年度	38,453	90.51%
5年度	38,250	99.47%
6年度	31,140	81.41%
7年度	35,561	114.20%
8年度	32,904	92.53%
9年度	30,754	93.47%
10年度	29,503	95.93%
11年度	25,539	86.56%
12年度	23,226	90.94%
13年度	24,164	104.04%
14年度	19,981	82.69%

純収支	収支額 (百万円)	収支率
3年度	3,128	7.36%
4年度	2,560	6.66%
5年度	2,004	5.24%
6年度	1,365	4.38%
7年度	1,736	4.88%
8年度	1,104	3.36%
9年度	614	2.00%
10年度	-14	-0.05%
11年度	-95	-0.37%
12年度	-111	-0.48%
13年度	4	0.02%
14年度	-336	-1.68%

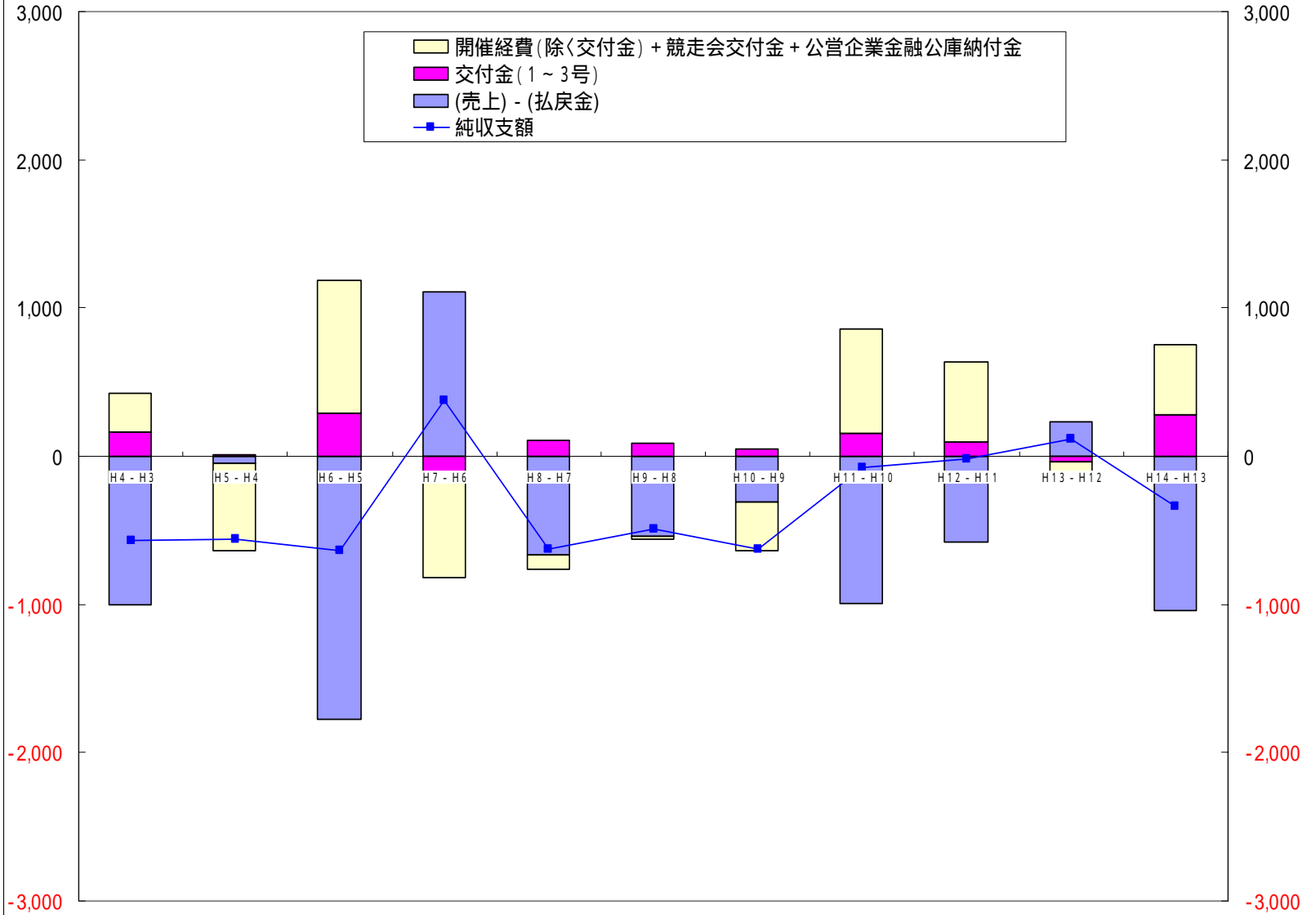
14年度は速報値

(場外受託収入を含む)

収支の対前年度比(要因分析)

百万円

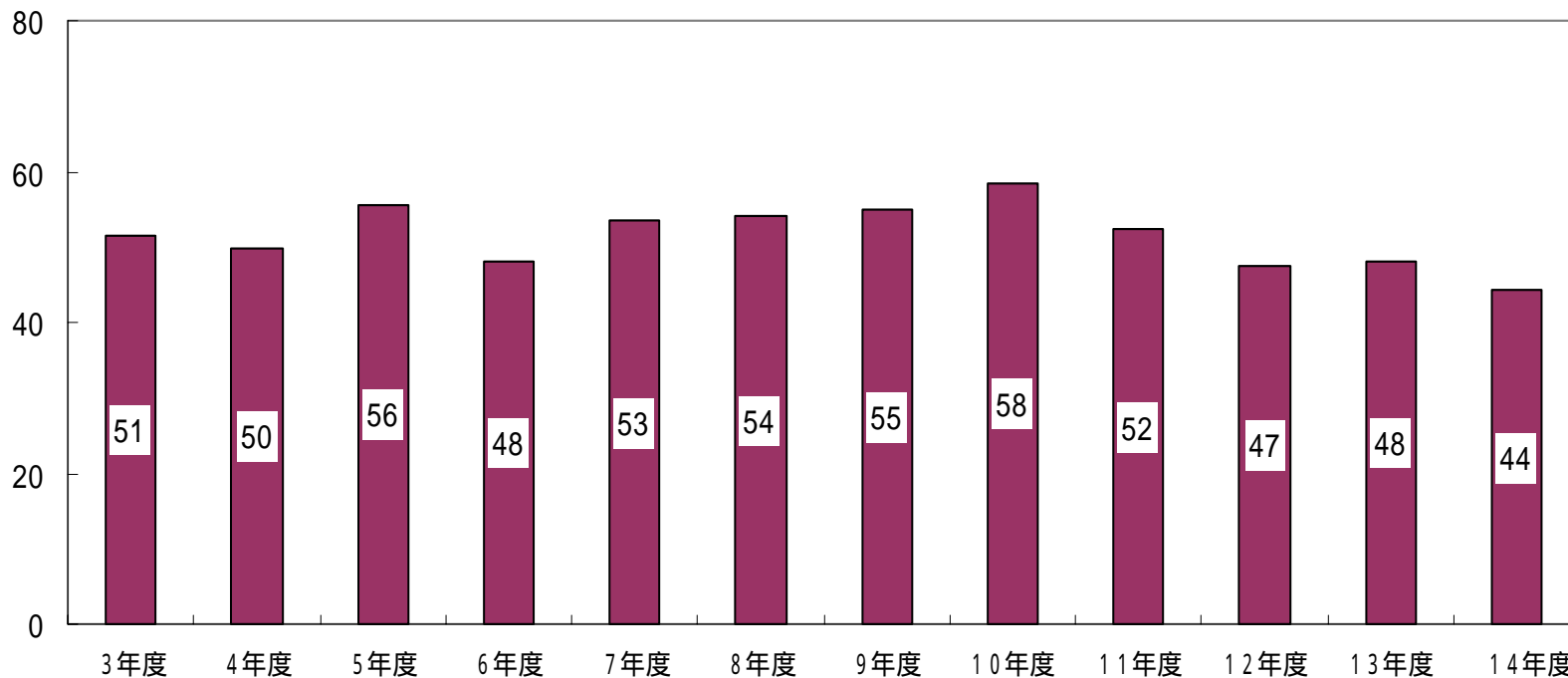
百万円



(場外受託収入を含む)

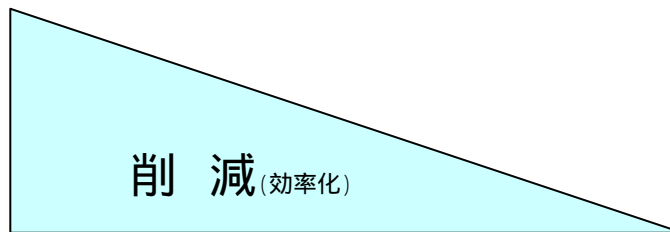
オートレースの開催経費額の推移 【平成14年度は速報値に基づく】

億円



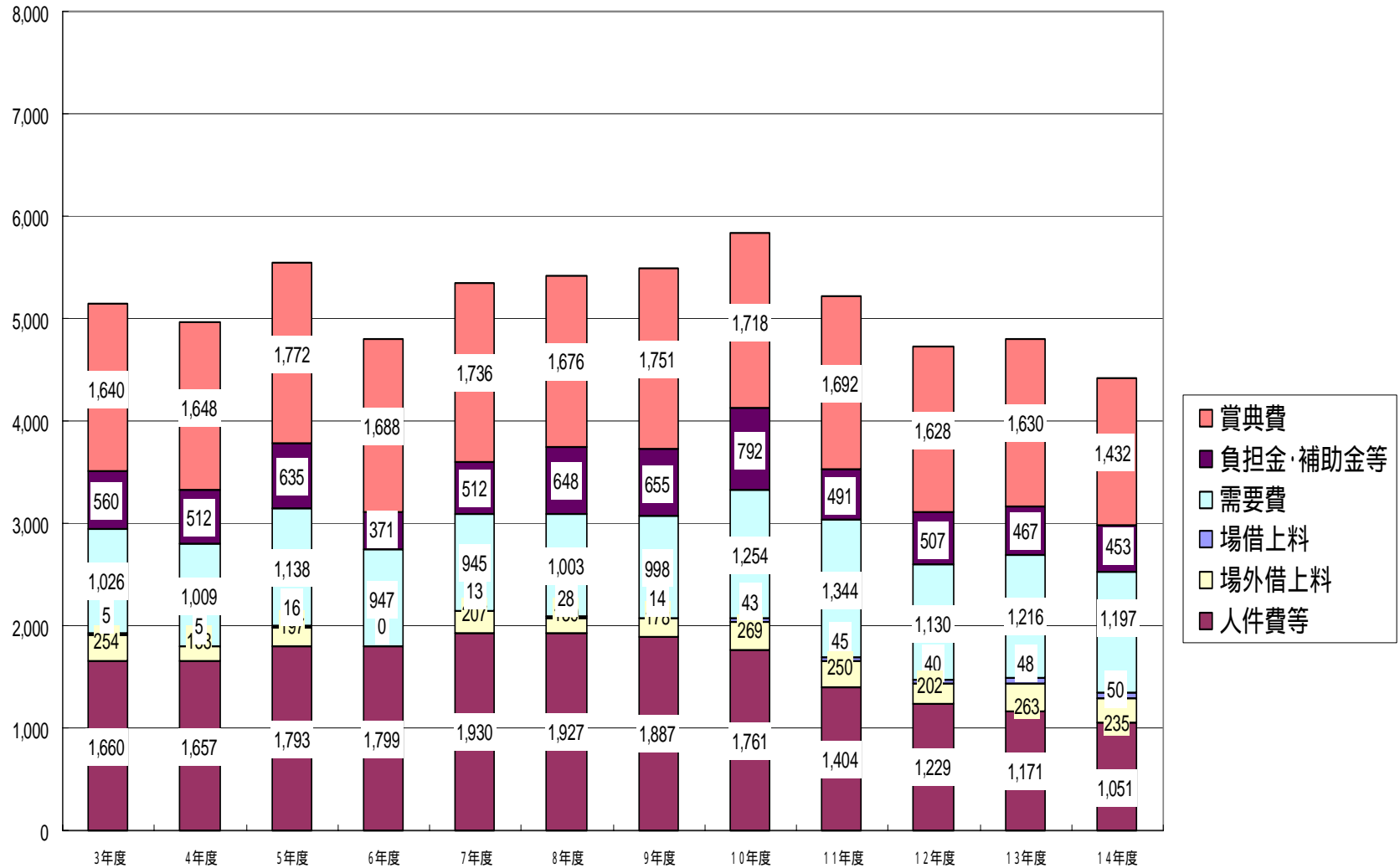
開催経費	
	開催経費額 (百万円)
3年度	5,146
4年度	4,969
5年度	5,551
6年度	4,805
7年度	5,342
8年度	5,420
9年度	5,483
10年度	5,837
11年度	5,226
12年度	4,735
13年度	4,795
14年度	4,420

平成14年度は速報値



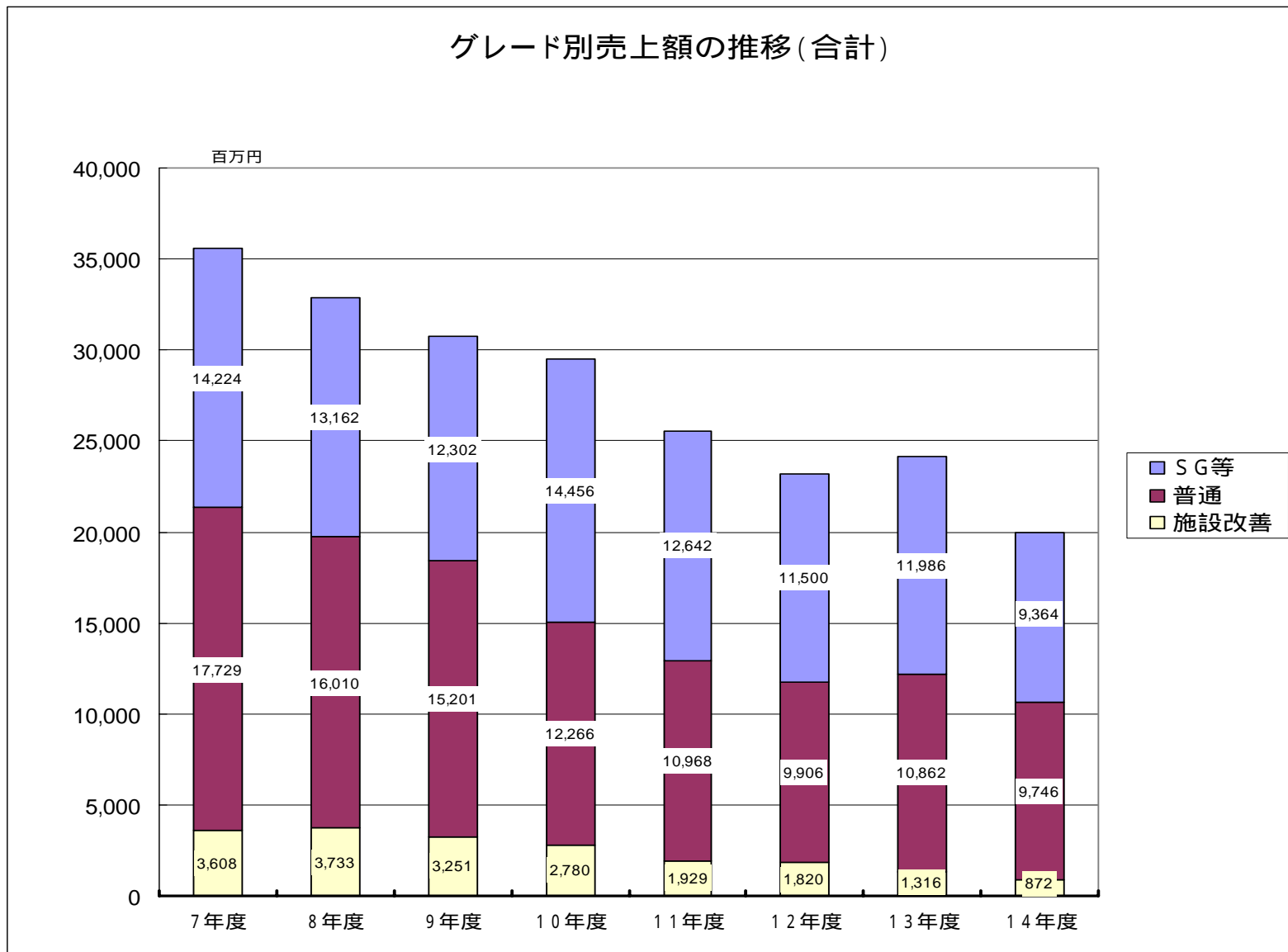
開催経費額内訳の推移

百万円



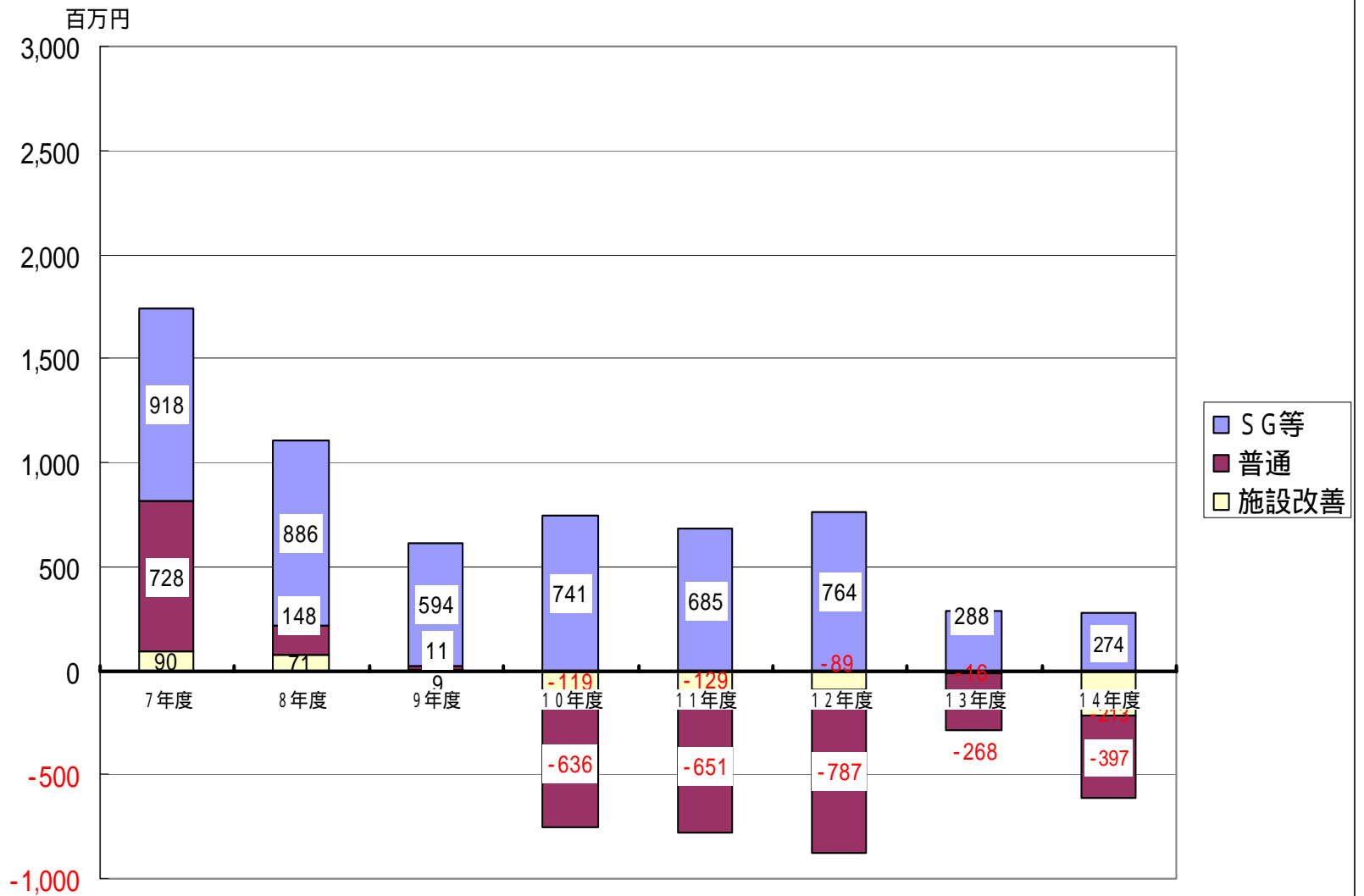
(2) オートレース事業をグレード別に見ていく

* グレード別集計は平成7年度より開始



* グレード別集計は平成7年度より開始

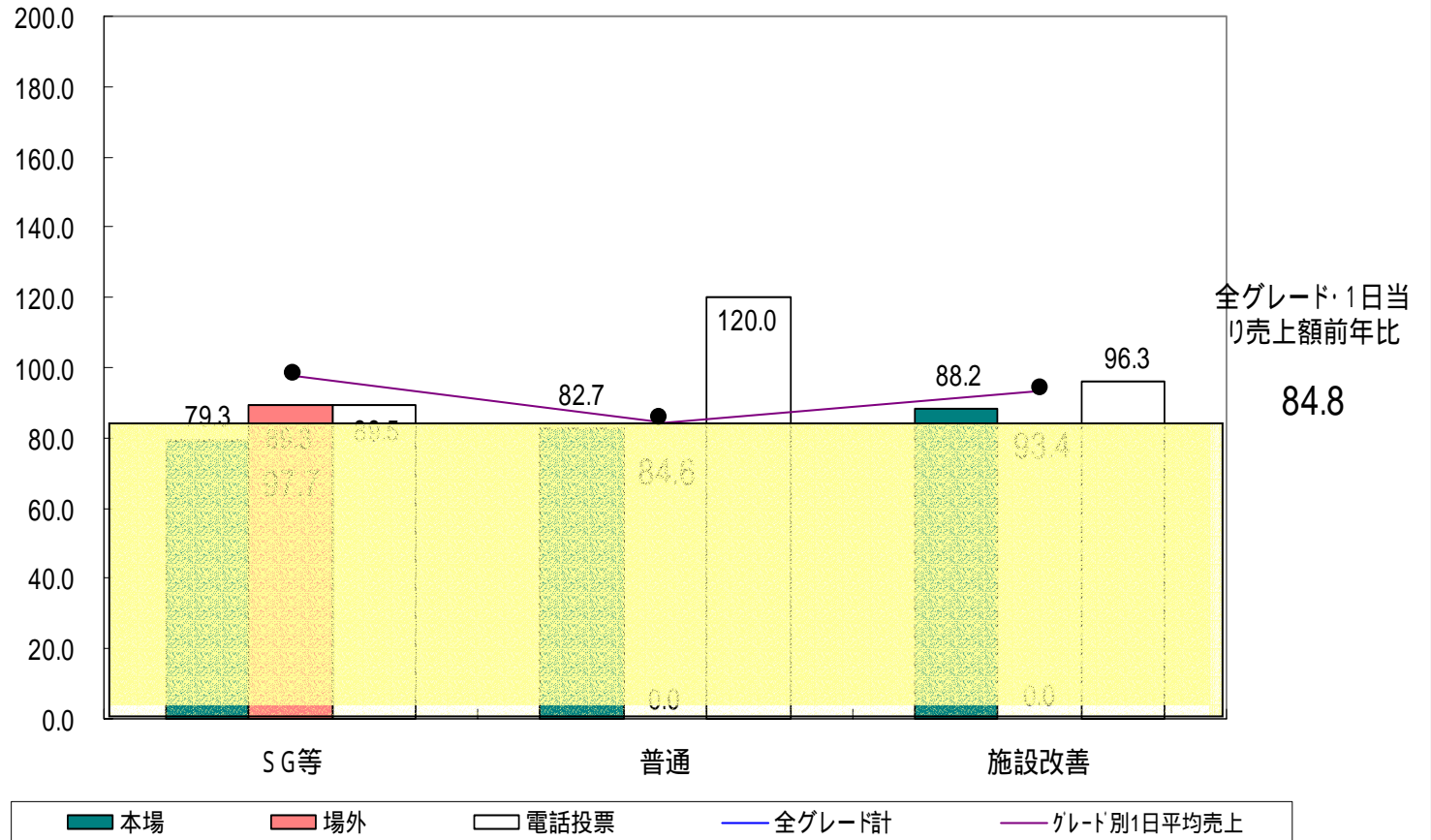
グレード別純収支額の推移(合計)



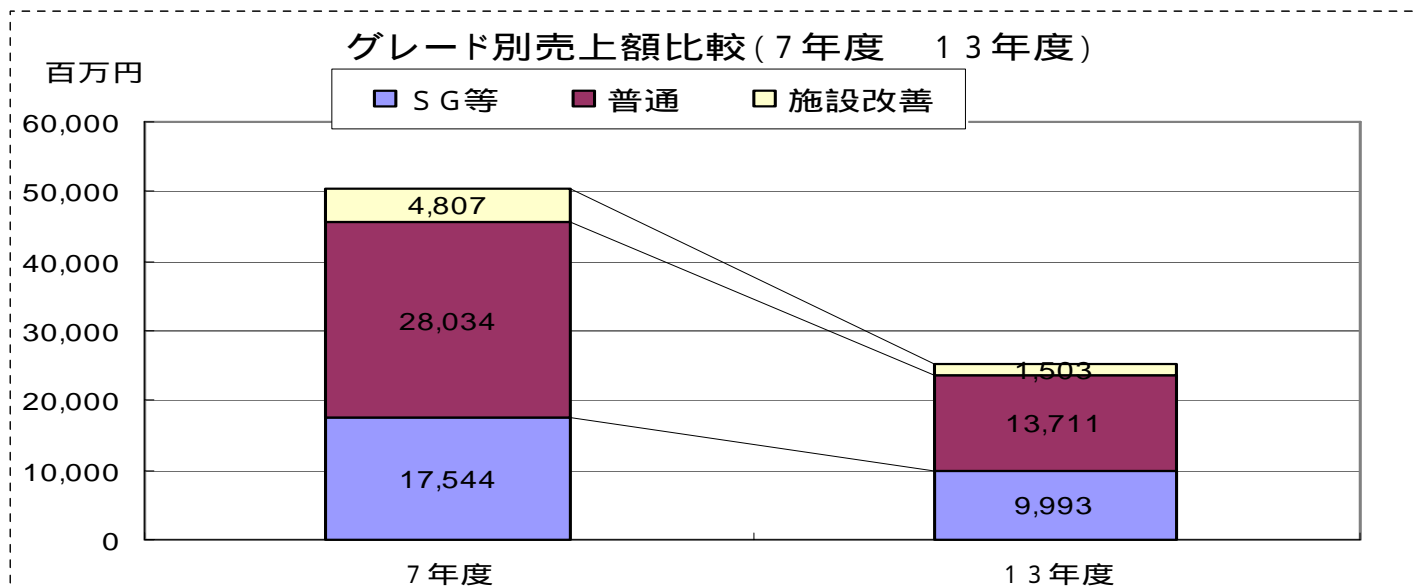
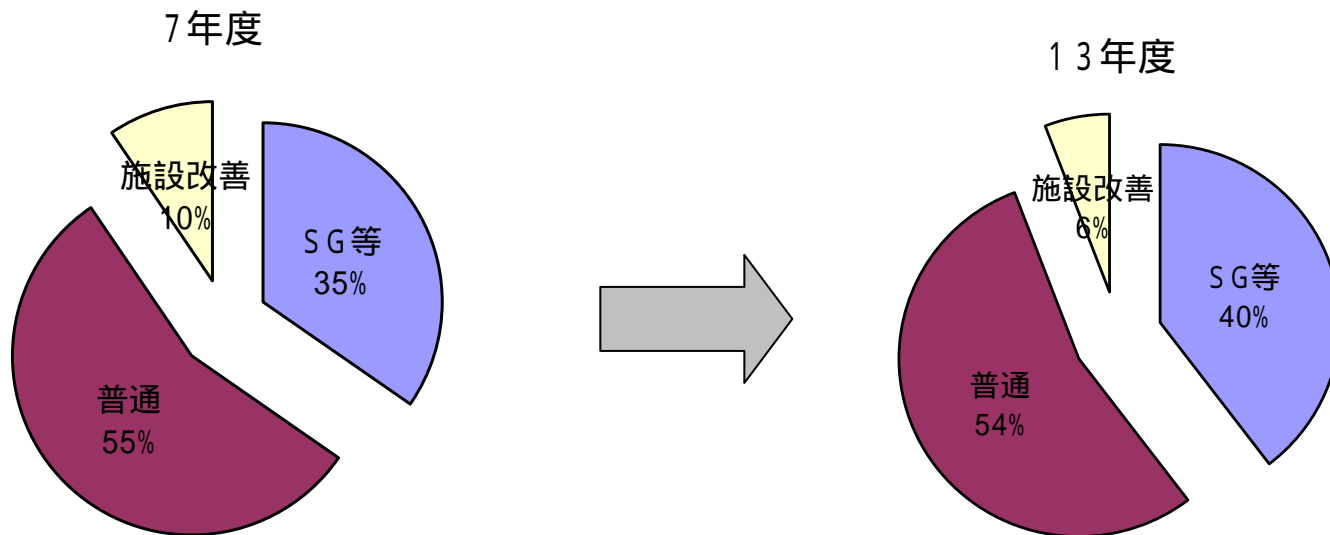
(場外受託収入を含む)

グレード別チャンネル別1日当り売上額前年比

【「H14.4～H15.3」と「H13.4～H14.3」との比較】



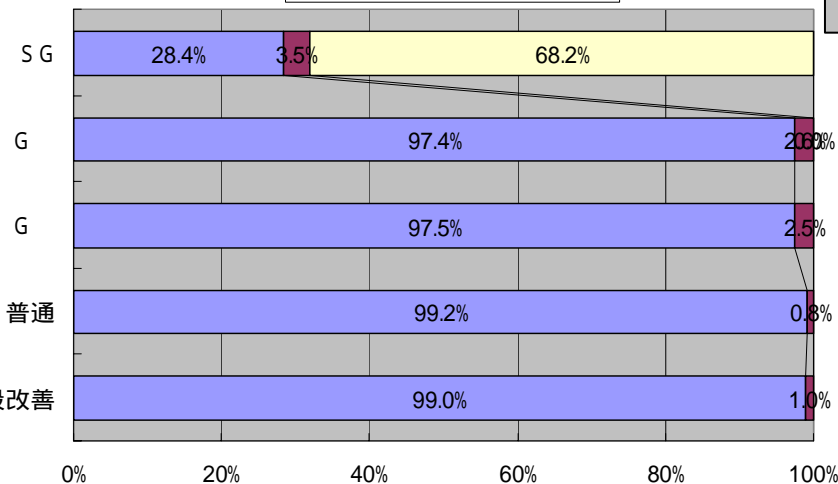
売上構成の変化・グレード別(平成7年度 平成13年度)



売上構成の変化・グレード別チャネル別(平成7年度 平成13年度)

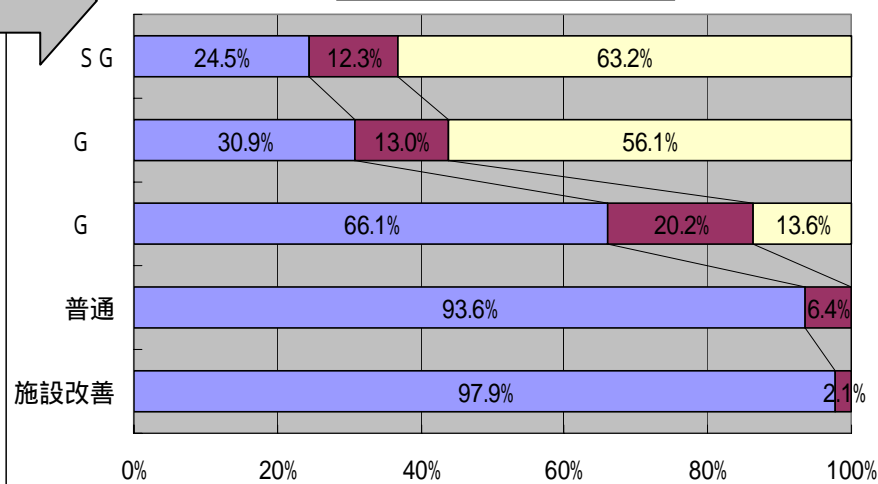
7年度グレード別チャネル別売上シェア

■ 本場 ■ 電話投票 ■ 場外



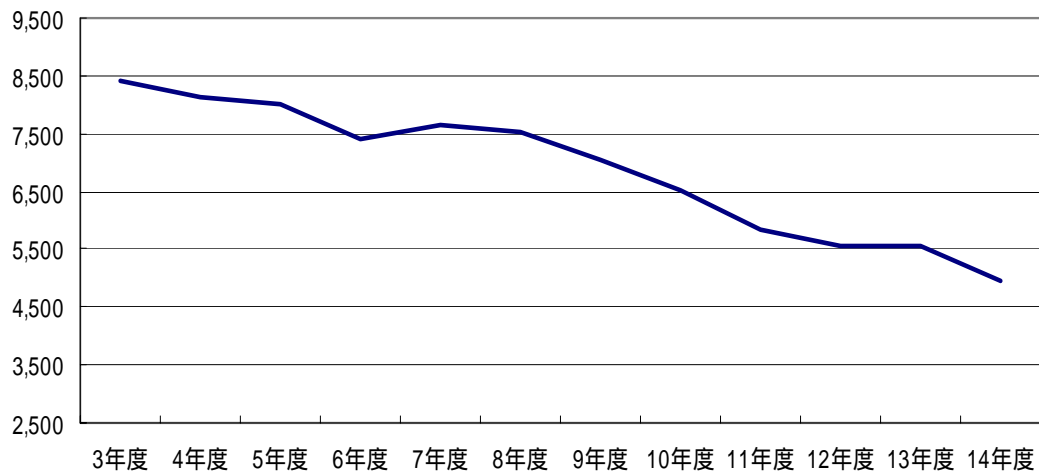
13年度グレード別チャネル別売上シェア

■ 本場 ■ 電話投票 ■ 場外



1日平均・本場入場者数の変遷

人



3. 活性化に向けた取組について

(1) 競技内容・アピールについて

・各場選手定数の増員(車立減レースをなくす)

車立減レースは、ファンから見ると不完全な商品を提供していることと同じで、オートレース本来の魅力を損なっており、この気持ちを反映するように売上の減少も顕著に見られる。

このためオートレースの魅力を最大限にアピールするためにも、全レースを通じ8車立の番組を組めるように、関係団体で協議する必要がある。

現状は、選手会の生活権を重視した定数であることから選手数も他の公営競技と比較して非常に少ないが、選手定数を多くしてもプロ競技の優勝劣敗の原則から、成績下位の選手が淘汰され退職を余儀なくされても仕方がないと考える。

・番組の充実、各種レースの実施

オープン・10mオープン・重ハンデ戦はもちろんのこと、期別対抗戦、体重別、出身地別、年齢別等の多種多様なレースを実施する。

・冠レース(社杯レース)の定着化

現在は、おもにレース関係業者を中心に冠レースを実施しているが、さらに地元企業を中心とした関係業者以外の企業とタイアップし、全ての開催で冠レースを実施したい。

また、過去には個人の申し込みによる個別レースへの誕生日等のネーミング(第10レース:山田花子杯争奪戦)も実施したが、今後は再開したいと考えている。

・3連単賭式の導入と場間場外発売の実施

平成15年11月からの3連単賭式導入に伴い、川口場、山陽場との間で場間場外発売を実施するとともに対抗戦も積極的に実施する。

・新規ファンの獲得及び女性ファンの来場促進

ビギナースクールの随時開催、ビギナー相談コーナーの設置等、初心者でも分かりやすく、親しみやすい環境の創設に努める。

また、営業の格言「女性の集まるところに男性も集まる」を考慮して、女性客も安心して来場し楽しめる「レディースシート」の増設や女性専用窓口の設置も検討するとともに、場内の禁煙エリアの拡大に努める。

・「ファン感謝デー」及び「ファン感謝の夕べ」の充実

平成3年度より実施している「ファン感謝デー」は、例年8,000人程度の入場者が

あり、地域のお祭りとしてはもちろん、今では飯塚市のお祭りとして認知されている。このことから、施行者・選手会・競走会の協力はもちろんのこと、地元企業や関連企業の参加を募り、地域に密着したオートレースを宣伝していきたい。「ファン感謝の夕べ」についても、より選手を前面に出した企画とし、選手とファンの親睦の場として充実させていきたい。

(2) 広報の方法

・CS放送(飯塚専用チャンネル)の放映開始

11月15日より従来の216chに加え、飯塚専用チャンネル777chの放映が決定した。

これにより飯塚オート全開催レースのCS放送が実施されることとなり、放映時間中を利用した広報や宣伝にも力を入れていきたい。

・インターネットによるレース実況中継の放映開始

すでに今年度のG ダイヤモンドレース及び業界初の薄暮レースにおいて実施したが、今後は、インターネット投票の普及と平成16年4月からのインターネットによる3連単投票開始を見据えて、飯塚オート専用チャンネルの放映開始と同時に、全開催レースでストリーミングの実施を予定している。

・CS放送での選手及び元選手の活用

CS放送時には、従前よりプレイヤーゲストとして選手を出演させており、今後も継続する。

また、777ch放映時の解説者として平成14年10月に引退した松田英之氏の起用を予定しており、新聞記者の解説とは違った着眼点からの解説に期待している。

・テレビ、ラジオの開催告知

従来から民放テレビ局及びラジオ局において放送しているが、放送時間帯の再検討を行う。

TVCFの放映内容については、自主制作のCFを放送しているが、今後も基本的には選手を起用したCFとし、併せて経費的に車両協制作のCFも加工し、使用することも考えている。

・新聞、雑誌等の開催告知

飯塚オートの場合、関東地区など他の地区と比較して、特に番組などの新聞掲出段数等の取り扱いが大きいことから、各種アンケートにおいても新聞を見ての来場

が最も多い結果となっている。

このため今後は、より内容を吟味して掲出していく。

なお、近頃はパチンコ店が頻繁にチラシを折り込んで集客に努めているが、飯塚場の場合はSG・G レースの時に折り込んでいる状況であり、新聞の段単価等や経費を比較して通常開催でもタイムリーに折り込んでいきたいと考えている。

・各種看板による開催告知

従来から掲出している場所も、当該地域の過疎化や形状の変化により効果的でない箇所も散見されるため、掲出箇所の見直しを行う。

特に今後は、福岡や北九州地区の都市圏において、電光表示板での掲出も実施したい。

・インターネット(オフィシャルホームページ)による情報発信

平成15年5月から飯塚オート・ホームページを立ち上げており、随時、内容を更新しながら全国に情報を発信する。

(3) 開催日程等

・開催日程の調整

飯塚場と山陽場の間では、従来から日程調整を行い重複した開催日が少なくなるように協議しているが、より踏み込んだ日程での開催、例えば1週間を3日と4日に振り分け、交互に開催することにより、競合する開催日をなくし、お互いに可能な限り場間場外発売を実施することも提案していきたい。

薄暮レースについては、業界初の試みであったが、直前の大水害の影響をもろに受けた結果となったが、オート界に与えたインパクトは大きく、宣伝効果も十分にあったと考えており、来年度も実施したいと考えている。

(4) 販売チャンネル

施設の整備

・現在、走路改修工事と併せて旧館中通路空調工事(冷暖房化)と北側便所改修工事を実施しているが、施設については可能な限り整備していく。

子供広場の充実

・場内バックストレッチ側に、遊具等を備えた公営競技の中でも有数の子供広場を保有しているが、遊具類も整備・見直しを行い、子供連れファンが一日中過ごせる子供広場を目指したい。

生鮮市・フリーマーケットの実施

・S G・G レース時に実施しているが、月単位で実施することにより、新規ファンの開拓と無関心層へオートレースを認知させたい。

従事員教育の徹底

・従事員の対応に関する苦情が非常に多いことから、外部講師を招聘して接遇の研修を実施し意識改革を行うとともに接遇の徹底を図る。

場外発売所の設置

・採算も考慮しながら積極的に進めていきたい。

(5) 運営体制

従事員賃金の引き下げ、退職割増金の廃止、各種手当の廃止等(現在、団体交渉中)

従事員定数の見直し、職員及び嘱託定数の見直し

各種委託料の徹底的な見直しと削減

オートレースに精通する団体等(例:競走会)への対費用効果を十分に考慮しながら包括的な委託化の推進。

選手賞金体系の見直し

選手はプロである以上、より一層の優勝劣敗を徹底することにより、選手の敢闘精神を高め、ファンの満足するレース展開を図る。

(1・2・3着の賞金を厚くし、6・7・8着を薄くすることで着順による差別化を図る。)